



自分をたもつマイルール



何事も子どもたちと一緒に楽しむ



ゆうこ
佐々木有子さん

夫・公平さん 長女・有希菜さん(13)

長男・純平さん(11) 次女・奏代夏ちゃん(6)

中学1年の長女、小学5年の長男、年長の次女がいます。長女の有希菜はダウン症で、生まれつき知的障がいがあります。この子には、大勢の人と関わる機会をたくさん作っていいこうと決めて子育てしてきました。

生後6カ月頃から子育て支援センターを利用し、職員の方や利用者さんと交流してきました。地域のイベントにも積極的に参加。下の子たちの運動会などの学校行事にも必ず連れて行き、たくさんの人と触れ合う機会を作ってきました。

現在、能代支援学校の中学部に通う有希菜は、とても人を好きな明るい子どもに成長しました。弟と妹の面倒

もよく見てくれます。下の子たちも有希菜が困っていると助けてくれて、3人とも素直で優しい子どもに育ってくれました。

子育て支援センターの方にアドバイスをもらったり、地域のママたちと情報交換したりしながら、夫と力を合わせて子育てしてきました。精いっぱい毎日ですが、障がいのある子どもを育てることを大変と思ったことはありません。

「何事も子どもたちと一緒に楽しむ」。私たちの子育てのルールです。子どもたちには、互いを支え合いながら、3人力を合わせて大きくなってほしいと思います。



私と子育て

周りの人を見られる人になって



のりと
大山記人さん
 長女・^{こころ}心結さん(11) 次女・^{あいな}葵心さん(8)
 長男・^{きずな}絆心さん(6)

令和6年度、浅内小学校は全校児童54人中9人が小規模特認校制度を活用しています。
 問合せ 教育研究所 TEL73-5178

小学6年の長女、2年の次女、1年の長男がいます。長女・心結の変化をきっかけに、小規模特認校制度を活用して全員、浅内小に通っています。心結は、3年生まで大人数の小学校に通っていましたが、楽しく過ごしていました。少人数で自然の中の活動が多い幼稚園に通い「毎日楽しい」と話す長男・絆心の様子をうらやましく感じていたようです。そうしたとき、たまたま目に入ったのが小規模特認校制度のチラシ。長女に見せると「行ってみたい」と前向きに答えたので、4年生から通わせてみることにしました。

転校してから、私たち親も驚くほどすべてが変わりました。もともと内気で口数が少ない子でしたが、活発になり積極的に発言できるようになりました。学校では授業中、みんなに発言の機会をつくり、何らかの役割を与えてくれるといえます。理解できていない人がいるときは、みんなで考えて教え合う。理解できるまでじっくり取り組めるおかげで、学力も上がりました。「周りの人を見られる人にならなさい」と子どもたちに話しています。浅内小では、それを自然に身に付けられていると感じます。子どもたちには学んだことを生かして、伸び伸び成長してほしいです。